



対象 犬・猫	手術時間 60～120 分	入院 2～5 泊	麻酔 全身麻酔
-----------	------------------	-------------	------------

△ 異物の誤飲後に嘔吐・食欲不振・腹痛が続く場合は緊急性があります。すぐにご来院ください。

■ どんな手術？

誤飲した異物が胃や腸に詰まって閉塞を起こした場合に行う緊急手術です。おもちゃ・紐・とうもろこしの芯・骨・石・衣類の切れ端などが代表的です。胃の中にある場合は内視鏡で摘出できることもありますが、腸の閉塞では開腹手術が必要です。腸が壊死している場合は、その部分を切除します。

■ この手術が必要なとき

- ・ 異物の誤飲後に消化管が閉塞している（嘔吐・食欲不振・腹痛）
- ・ 内視鏡での摘出が難しい、または適さない異物
- ・ 腸閉塞・腸管壊死が疑われる
- ・ 紐状の異物（紐・布など）による腸閉塞

■ 手術の流れ

- ① X 線・エコー・CT で異物の位置と腸の状態を確認します
- ② 全身麻酔をかけ、お腹を切開します
- ③ 異物の位置（胃または腸）を確認します
- ④ 胃または腸を切開して異物を摘出します
- ⑤ 腸が壊死している場合は、その部分を切除して端と端をつなぎ直します（端端吻合）
- ⑥ 腹腔を洗浄し、縫合して終了します

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。

■ 入院・退院の目安

術後 2～5 泊が目安です。術後 3～5 日は絶食と点滴で管理し、流動食から段階的に食事を再開します。腸切除を行った場合は特に慎重に管理します。

■ 術後のケア

- ・ 食事は流動食から少しずつ通常食へ戻します
- ・ 腸の吻合を行った場合は 3～6 週間後に経過を確認します
- ・ 再び異物を飲み込まないよう、環境の見直しをお勧めします

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・縫合不全・腹膜炎（最も重大）
- ・腸管壊死の範囲が広い場合は回復が難しくなる
- ・術後の腸管運動障害
- ・感染

■ よくある質問

Q. 何を飲み込んだかわからない場合は？

A. X線・エコー・CTで異物の位置や種類をできる限り確認します。金属や骨（不透過性）と布やプラスチック（透過性）では見え方が異なります。

Q. 内視鏡で取れることはありますか？

A. 胃の中にある場合、異物の形状によっては内視鏡で摘出できることがあります。まず評価します。

Q. 発見が遅れるとどうなりますか？

A. 腸の壊死が進むと術後の経過が悪くなります。「異物を飲んだかもしれない」と思ったら、早めにご連絡ください。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください